

真下 紀子 道議 (代表質問)



冬季に加温なしで野菜栽培 ハウスインハウス現地調査

真下紀子議員

厳しい冬の寒さの北海道で、冬期に不足がちな葉物野菜を、化石燃料による暖房なしで栽培する画期的な取り組みが道立上川農業試験場で行われています。

私ども共産党道議団は、2月に現地を訪ね、農家が通常使用する大型ハウスに2重にフィルムをかけ、ハウス・イン・ハウスともいふべき施設の中で、冬期間に値段のいいコマツナやワサビナ、リーフレタスなどが青々と育つ様子を直接見てきました。

実用化に向け、今後、取り組みを一層加速すべきと考えますが、いかがか、伺います。

荒川裕生副知事

最後に、経済産業対策に関し、道総研における野菜栽培の研究についてであります。道総研農業試験場では、冬期間での低コストな野菜生産技術を確立するため、平成26年度から、フィルムを2重にした農業用パイプハウスの利用や、ハウスへの内張りの追加、さらに、ハウスの内部に小型のハウスを設置するなど、既存の資材を活用して保温性を高める栽培試験に取り組んでおり、外気温がマイナス20度以下の環境でも、リーフレタスやコマツナなどにつきましては、暖房なしで生産することが可能であることが確認されたところでございます。

この技術の確立により、冬でも、府県産に負けない品質と価格で供給が可能な道産野菜のさらなる品目拡大が期待できますことから、道総研では、これまでの知見を踏まえ、来年度の研究予算を増額し、3カ年の重点研究として、太陽熱の蓄熱や新たな保温資材の活用に取り組むなど、早期の実用化に向け、研究を加速していくこととしております。

真下議員

上川農業試験場で私が強く感じたのは、北海道農業が抱える課題を解決する温かな視点でした。

冬に野菜を育てるエネルギーを化石燃料に頼らない、農家が通常使う資材を使えば初期投資を抑制できる、冬の農業収入や冬場の継続雇用につなげたいということで、北海道の農家経営の課題に正面から向き合い、笑顔で研究を進める姿に心打たれました。北海道の冬期農業に大きな希望をもたらすと考えます。

知事の答弁をいただきましたのですが、副知事からの答弁でちょっと残念でしたけれども、国の産業政策の中で、農業を基幹的な生産部門として位置づけている我が党はエールを送ります。